平成２５年度研究成果報告書《平成 25 年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	２６	都道府県・指定都市名	京都府
学校名（ふりがな） （生徒数）	京都府立鳥羽高等学校（きょうとふりつとばこうとうがっこう）（１０７６人）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：京都市南区西九条大国町１
電話番号：０７５－６７２－６７８８
研究内容等を掲載しているウェブサイトの URL：http://www.kyoto-be.ne.jp/toba-hs/

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：４高等学校
○研究対象教科等：地理歴史科
○研究のキーワード：①時間軸・空間軸による歴史の考察　②歴史遺産
③歴史調査の方法　④言語活動
○研究成果のポイント：　身近な地域の歴史遺産について協働して地域調査を行い，調査の成果を歴史探究ガイドブックにまとめて互いに批評し合うことで，歴史調査の方法を習得し，総合的に歴史を考察することが可能になった。学習過程では，生徒の学習意欲の高まりがみられ，主体的に歴史学習に取り組む態度も確認できた。

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

「日本の風土と文化－京の文化遺産とひとびと－」
（日本史Ｂにおいて地理学習の観点を重視した歴史の総合的な考察を図る学習について）

（２）研究主題設定の理由

学習指導要領では，歴史の展開を空間軸と時間軸の視点から総合的に考察することが求められている。そこで，本研究では，歴史学習に対して意欲的に取り組み，多面的・多角的に考察させるためには以下の３点が有効ではないかと考え，研究主題を設定した。

①身近な地域に残る歴史遺産を探究学習の素材とすること。
②日本史学習に，地理的条件や世界の歴史を関連付けて考察させること。
③学習過程において協働学習を取り入れることで，言語活動を活発化させること。

（３）研究体制

校長Ａ 須原洋次
副校長 松本啓二
事務長 谷口隆一
教務部長 松井佳代美
教科主任Ｂ 青木泰嘉
教科研究員Ｃ 田中誠樹
教科研究員Ｄ 奥村典夫

注）Ａ～Ｄが研究にあたる

（４）１年間の主な取組の経過

平成25	１学期	①テーマの共有と個々人による情報収集　②調査班の編成と班員の役割認識 ③調査内容や行程のプランニングと準備

年度	夏休み	④フィールドワーク特別講義　⑤京都府立図書館においてのレファレンス受講による調査方法の習得　⑥「歩く・見る・聞く」調査による資料や情報収集 ⑦個々人による「調査ノート」と「資料ファイル」の整理
	２・３学期	⑧班単位で「調査報告書」の立案と作成　⑨班単位で中間発表 ⑩班単位で歴史探究ガイドブック（「歴史ナビ」）の原稿立案と作成 ⑪完成した歴史探究ガイドブック（「歴史ナビ」）に基づく共同発表（班単位）の立案

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

①近代都市京都成立の過程を学習内容としたこと

伝統都市京都がもつ歴史的条件と内陸都市としての地理的条件や，19 世紀の国際環境等，多面的・多角的な視点を設定し，近代都市に必要な諸条件を吟味し，歴史を大観させることを企図した。

②今に継承されている歴史遺産を学習対象としたこと

班別の調査活動（「歩く・見る・聞く」活動を取り入れた体験活動）を行い，近代都市京都を象徴する歴史遺産の成り立ちとその継承のための工夫や努力について，多様な視点から探究し,歴史と共に生きていることを生徒に体感させることを企図した。

③班編成に基づく協働の形態を学習方法としたこと

生徒自らが調査結果に基づく合議を通じ，他者の意見を踏まえて自らの意見を吟味したり，工夫して問い立てしたりして報告書（歴史探究ガイドブック）をまとめ，その成果を共有し批評し合う機会を授業で企図した。

④歴史探究ガイドブック（「歴史ナビ」）作成を学習目標としたこと

歴史を考察し表現する学習に当たり,その成果物として,歴史探究ガイドブック(「歴史ナビ」）の作成を目標にすえた。目標を学習の冒頭に提示することで学習に見通しをもたせ，明確な課題意識をもって取り組ませることを企図した。

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

①　班による調査活動の記録を基に，班で発表活動を行った。生徒自らが協働して，計画・実行・話し合い・まとめをし，言語活動を充実させることで，思考力・表現力が一段と深まることが認められた。

②　この調査の成果を表すレジュメであると同時に，調査・探究の方向を指し示す学びのテキストでもある「歴史ナビ」を作成できた。

③　日本の歴史について，地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させる手法を具体的に提示することができた。

（２）研究成果の意義等

①　生徒自らが立てた問いに基づいて筋道立てて考察させ，互いの意見を述べ合う機会を設けることで，言語活動を活発化させ，思考力・表現力を育成することができた。

②　歴史遺産を次代に継承していく意識を共有するために，協働による調査活動を取り入れることで，歴史と共に生きていることを生徒に体感させることができた。

（３）指定期間終了後の取組

学習指導要領の趣旨に基づいて，研究成果を校内で広め，深化させるとともに，科研究会や総合教育センターにおける研修の機会を利用して，研究成果を積極的に発信する。